

宇都宮の環境（令和 6 年度版 環境状況報告書）【概要版】

1 第 3 次宇都宮市環境基本計画の概要

(1) 計画の位置づけ

宇都宮市環境基本計画は、宇都宮市環境基本条例に基づく環境行政上の総合計画となります。

また、第 6 次宇都宮市総合計画の分野別計画「産業・環境の未来都市の実現に向けて」の基本施策「環境への負荷を低減する」を実現するための計画としても位置付けられており、本市のさまざまな行政分野と連携しながら総合的・分野横断的に取り組みます。

(2) 環境都市の姿

本計画では、SDGs の理念などを踏まえ、令和 2 年 3 月に「環境未来都市 うつのみや」を目指すことを宣言しました。「環境未来都市」とは、次のような社会を実現した都市をいいます。

【環境未来都市】

- ① 地球温暖化の原因となる温室効果ガスを排出しない脱炭素社会
- ② 「もったいない」のところでひとやものを大切にする循環型社会
- ③ 環境，経済，社会の統合的な向上が図られた持続可能なまち

(3) 計画期間

平成 28（2016）年度から令和 7（2025）年度まで

【前期】 平成 28（2016）年度 から 令和 2（2020）年度まで

【後期】 令和 3（2021）年度 から 令和 7（2025）年度まで

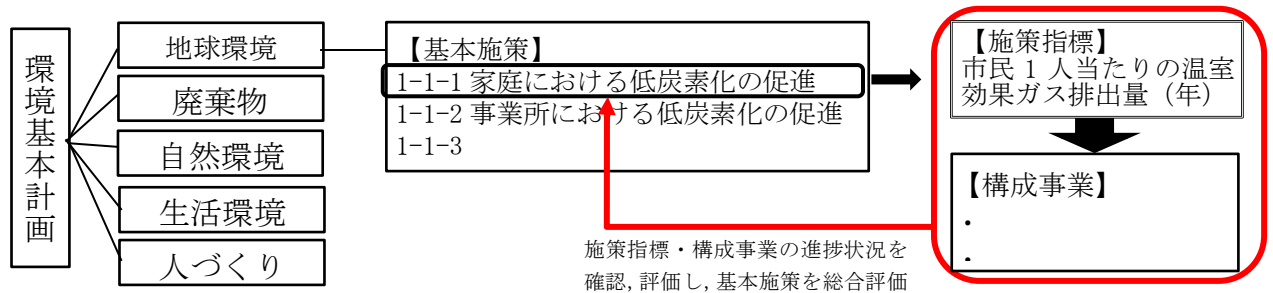
2 進捗状況の評価方法について

(1) 分野別施策の基本施策の評価について

第3次宇都宮市環境基本計画（後期計画）では、5つの分野（地球環境、廃棄物、自然環境、生活環境、人づくり）において各基本施策を掲げておりますが、基本施策の評価については、基本施策ごとに設定している施策指標及び構成事業の評価に基づき、総合評価を行います。

また、令和6年2月に「宇都宮市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を策定したことから、本編においては、新たに定めた数値を目安値として記載しております。

【基本施策の体系イメージ】



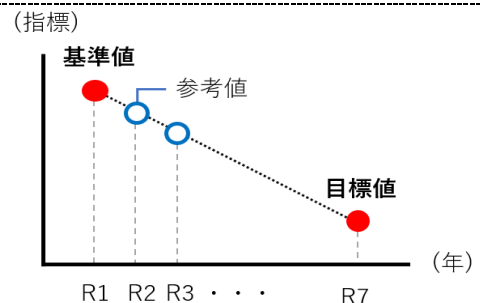
(2) 施策指標の評価方法

各年度の施策指標の進捗状況の評価について、当該年度の実績値と参考値※を比較し、その達成度に応じて「A」、「B」、「C」で評価します。

表1 施策指標の評価基準

評価	A	B	C
達成度 (評価基準)	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満

※ 各施策指標について、令和元年度の実績値を「基準値」と、令和7年度の「目標値」を直線で結んだときの各年度の施策指標の値が「参考値」となります。



(3) 構成事業の施策指標の評価

事業の進捗により評価します。評価の基準は、各課の事務概要のスケジュール等に照らし、「計画以上」、「計画どおり」、「計画より遅れ」で評価します。

(4) 基本施策の総合評価方法

基本施策の総合評価については、各基本施策の施策指標及び構成事業の評価に基づき、「順調」、「概ね順調」、「やや遅れ」で評価します。

表2 基本施策の総合評価

項目 \ 評価	A	B	C
① 施策指標	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満
② 構成事業	「計画以上」が 2以上	「計画どおり」が 4以上	「計画より遅れ」が 2以上
(構成事業が 3つ以下の場合)	「計画以上」が 1以上	「計画どおり」が 構成事業数と同数	「計画より遅れ」が 1以上
総合評価	上記①②の合計点により判定		
	順調	概ね順調	やや遅れ
	評価不能がない かつ AまたはBが 1つ以上	Bが2つ または AとCが1つずつ または Aと評価不能	Cが2つ または BとCが1つずつ または BまたはCと評価不能

3 基本施策の進捗状況の要旨

(1) 施策指標の評価について

分野別の基本施策に基づき設定している施策指標について、令和5年度は、35のうち31の指標でA評価またはB評価（全体の約9割）となりました。一方で、4つの指標がC評価となりました。

【施策指標についての評価（令和5年度実績）】

分野	評価		
	A	B	C
地球環境	2	5	1
廃棄物	5	0	1
自然環境	2	3	2
生活環境	4	4	0
人づくり	3	3	0
合計	16	15	4

(2) 構成事業の評価について

第3次宇都宮市環境基本計画（後期計画）では、各分野の基本施策に基づき全168構成事業を掲げ、各種事業を推進しています。

令和5年度は、167事業が「計画どおり」となりました。

「うつのみや生きものつながり活性化事業の推進」はマッチング第1号による保全活動が6回開催（のべ151人参加）されたが事業開始以降、活動団体が1組にとどまっていることから、事業の進捗は、「計画より遅れ」となりました。

【構成事業についての評価（令和5年度実績）】

分野	評価		
	計画以上	計画通り	やや遅れ
地球環境	—	40	—
廃棄物	—	28	—
自然環境	—	52	1
生活環境	—	18	—
人づくり	—	29	—
合計	0	167	1

(3) 基本施策の総合評価について

施策評価の評価結果と構成事業の評価結果を踏まえた各基本施策の総合評価は、35のうち31の基本施策で「順調」「概ね順調」となり、4の基本施策が「やや遅れ」となりました。

【基本施策の総合評価（令和5年度実績）】

分野	総合評価		
	順調	概ね順調	やや遅れ
地球環境	2	5	1
廃棄物	5	0	1
自然環境	2	3	2
生活環境	4	4	0
人づくり	3	3	0
合計	16	15	4

【分野 1 地球環境】

施策指標（全 8 指標）			構成事業（全 8 事業）		
A 評価	B 評価	C 評価	A 評価	B 評価	C 評価
2	5	1	—	8	—

基本施策 施策指標		施策指標							構成事業	総合評価
		(令和元年度) R1 (基準年)	(令和2年度) R2 (実績値)	(令和3年度) R3 (実績値)	(令和4年度) R4 (実績値)	(令和5年度) R5 (実績値)	(令和5年度) R5 (参考値)	(令和5年度) R5 (評価)	(令和5年度) R5 (評価)	(令和5年度) R5 (評価)
1-1-1	家庭における低炭素化の促進 【施策指標】 市民1人当たりの温室効果ガス排出量(年)	3.58t-CO2(H30)	3.19(R1)	3.09(R2)	3.12(R3)	3.15(R4)	2.89(R4)	B 92%	B	概ね順調
1-1-2	事業所における低炭素化の促進 【施策指標】 事業者の温室効果ガス排出量(年)	232.7万t-CO2 (H30)	219.5(R1)	207.5(R2)	224.0(R3)	213.8(R4)	201(R3)	B 94%	B	概ね順調
1-1-3	市役所における低炭素化の促進 【施策指標】 市有施設における温室効果ガス排出量(年)	91,874t-CO2	84,379	82,552	73,129	74,977	81,491,087	A 100%	B	順調
1-2-1	創エネルギー・蓄エネルギーの普及促進 【施策指標】 太陽光発電設備導入世帯数(累計)	17,957世帯	18,902	19,821	21,043	22,227	21,986	A 100%	B	順調
1-2-2	地域のポテンシャルを生かした新たなエネルギーの活用 【施策指標】 冷熱エネルギーを活用した事業への参入者数(累計)	6事業者 (R2)	5	7	7	6	8	B 75%	B	概ね順調
1-3-1	環境負荷の少ない都市整備 【施策指標】 地域新電力による温室効果ガス削減量 (累計)	0t-CO2(R2)	—	1,114	2,769	4,411	4,680	B 94%	B	概ね順調
1-3-2	エコで便利な交通体系の構築 【施策指標】 公共交通夜間人口カバール率(年)	90.0%	90.5%	90.7%	90.8%	92.5%	95.6%	B 97%	B	概ね順調
1-3-3	気候変動への適応策の推進 【施策指標】 適応をテーマとした出前講座等の数(年)	—	3回	1回	5回	1回	7回	C 14%	B	やや遅れ

【C評価となった指標】

基本施策 施策指標		R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7 (目標値)	施策指標評価
1-3-3 気候変動への適応策の推進	参考値 (目標値)	—	2回	3回	5回	7回	8回	10回	C 14%
【施策指標】 適応をテーマとした出前講座等の数（年）	実績値	—	3回	1回	5回	1回			
要因分析		令和5年度は当該テーマに関する講座希望が前年度よりも減少したため							
施策の評価・今後の取組方針		・適応をテーマとした出前講座等の数について、令和5年度は目標を大きく下回る結果となった。 ・令和5年度は当該テーマに関する講座希望が前年度よりも減少したが、他の関連する出前講座においても適応に向けた取組の紹介等を行っており、一定の普及啓発を図ってきた。 ・今後もカーボンニュートラルの実現に向けて、幅広い世代を対象に普及啓発に取り組んでいく。							

【施策指標について】

地球環境分野では8施策指標を掲げており、評価は、「A評価」2,「B評価」5,「C評価」1, となりました。

施策指標「適応をテーマとした出前講座等の数(年)」については、令和5年度は当該テーマに関する講座希望が前年度よりも減少したことによりC評価となったものの、適応を含めた地球温暖化対策について広く講座を実施している状況です。

引き続き、2050年カーボンニュートラル及び新たな2030年度の削減目標の達成に向けて、より一層、温室効果ガス排出削減の強化が求められます。

【構成事業について】

地球環境分野では、40構成事業を掲げ、再生可能エネルギーの普及啓発等を推進していますが、令和5年度は、全て「計画どおり」となりました。

【分野 2 廃棄物】

施策指標（全 6 指標）				構成事業（全 6 事業）			
A 評価	B 評価	C 評価	評価不能	A 評価	B 評価	C 評価	評価不能
5	—	1	—	—	6	—	—

基本施策 施策指標		施策指標						構成事業	総合評価
		(令和元年度) R1 (基準年)	(令和2年度) R2 (実績値)	(令和3年度) R3 (実績値)	(令和4年度) R4 (実績値)	(令和5年度) R5 (実績値)	(令和5年度) R5 (参考値)	(令和5年度) R5 (評価)	(令和5年度) R5 (評価)
2-1-1	普及啓発の推進 【施策指標】 ごみ分別アプリ「さんあ〜る」のダウンロード数(累計)	26,463件	34,409	42,984	50,891	57,556	42,821	A 100%以上	B 順調
2-1-2	発生抑制・再使用の促進 【施策指標】 市が実施したフードドライブの参加者(年)	121人	49	298	832	970	307	A 100%以上	B 順調
2-2-1	資源循環利用の推進 【施策指標】 市が主体となって取り組む廃棄物系バイオマスの資源化量(年)	514t	947	1,075	815	1,187	1,171	A 100%以上	B 順調
2-2-2	各主体による資源化の促進 【施策指標】 市民から依頼のあった分別講習会と出前講座の開催件数(年)	67回	5	11	56	46	69	C 67%	B やや遅れ
2-3-1	適正な収集・処分体制の推進 【施策指標】 行政収集等実施率(年)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	A 100%以上	B 順調
2-3-2	不法投棄の未然防止・拡大防止 【施策指標】 不法投棄の事案の解決率(年)	97.8%	—	99.5%	98.5%	99.3%	98.0%	A 100%以上	B 順調

【C評価となった指標】

基本施策 施策指標		R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7 (目標値)	施策指標評価
2-2-2 各主体による資源化の促進 【施策指標】 市民から依頼のあった分別講習会と出前講座の開催件数（年）	参考値 (目標値)	67回	68	68	69	69	70	70回以上	C 67%
	実績値	67	5	11	56	46			
要因分析		申込みのあったテーマの講座を開催しており、令和5年度は当該テーマに関する講座希望が前年度よりも減少したため。							
施策の評価・今後の取組方針		・市民から依頼のあった分別講習会と出前講座の開催件数について、令和5年度は目標値を下回る結果となった。 ・ホームページや広報紙などによる講習会等の周知やリサイクル推進員を通じた開催機会の拡充に取り組んだ結果、目標達成には至らなかったものの、地区文化祭など分別講習会以外の開催回数が増加しており、ごみの減量化・資源化に向けた地域住民への周知啓発の機会の拡大につながっている。 ・引き続き、企業や学生など幅広い世代を対象とする周知を行い、開催件数の増加を図っていく。							

【施策指標について】

廃棄物分野では6施策指標を掲げており、評価は、「A評価」5,「C評価」1, となりました。

施策指標「市民から依頼のあった分別講習会と出前講座の開催件数(年)」については、ホームページや広報紙などによる講習会等の周知やリサイクル推進員を通じた開催機会の拡充に取り組んだ結果、目標達成には至らなかったものの、地区文化祭など分別講習会以外の開催回数が増加しており、ごみの減量化・資源化に向けた地域住民への周知啓発の機会の拡大につながっています。

今後は、幅広い世代を対象とする周知に取り組み、分別講習会等を依頼する団体等の裾野の拡大を図る必要があります。

【構成事業について】

廃棄物分野では、28 構成事業を掲げ、生ごみの減量化・資源化に向けた普及啓発や産業廃棄物排出事業者等に対する指導等を推進していますが、令和5年度は、すべての構成事業において「計画どおり」となりました。

【分野3 自然環境】

施策指標（全7指標）			構成事業（全7事業）		
A評価	B評価	C評価	A評価	B評価	C評価
2	3	2	—	7	—

基本施策 施策指標		施策指標							構成事業	総合評価
		(令和元年度) R1 (基準年)	(令和2年度) R2 (実績値)	(令和3年度) R3 (実績値)	(令和4年度) R4 (実績値)	(令和5年度) R5 (実績値)	(令和5年度) R5 (参考値)	(令和5年度) R5 (評価)	(令和5年度) R5 (評価)	(令和5年度) R5 (評価)
3-1-1	生物多様性保全に関する意識の醸成 【施策指標】 「生物多様性」の言葉の意味を知っている市民の割合(年)(生物多様性の認知度)	33.6%(R2)	33.6%	40.8%	44.6%	34.7%	58.4%	C 59%	B	やや遅れ
3-1-2	生きものとその生息・生育環境の保全の推進 【施策指標】 外来種の影響に関する認知度(年)	64.8%(R2)	64.8%	84.9%	85.8%	88.4%	79.9%	A 100%以上	B	順調
3-2-1	農地等の多面的機能の維持向上 【施策指標】 市内農地における環境保全活動カバース率(累計)	39.3%	38.1%	38.8%	38.6%	39.9%	66.4%	C 60%	B	やや遅れ
3-2-2	都市の緑の保全と創出 【施策指標】 緑地保全・緑化推進に係る活動箇所数(累計)	301箇所	325	327	335	343	346	B 99%	B	概ね順調
3-2-3	水資源の確保 【施策指標】 雨水貯留施設等設置費補助件数(H28からの累計)	378件	1,129	1,298	1,432	1,564	1,528	A 100%以上	B	順調
3-2-4	河川環境の保全と創出 【施策指標】 河川の整備率(都市河川、準用河川)(累計)	62.4%(R2)	62.5%	63.8%	64.4%	64.7%	65.2%	B 99%	B	概ね順調
3-2-5	良好な景観の保全と創出 【施策指標】 景観形成重点地区等の指定数(累計)	7地区	8	8	8	8	10	B 80%	B	概ね順調

【C評価となった指標】

基本施策 施策指標		R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7 (目標値)	施策指標評価
3-1-1 生物多様性保全に関する意識の醸成 【施策指標】「生物多様性」の言葉の意味を知っている市民の割合（年） （生物多様性の認知度）	参考値 （目標値）	33.6% （R2）	33.6%	41.9%	50.2%	58.4%	66.7%	75.0%	C 59%
	実績値	33.6%	33.6%	40.8%	44.6%	34.7%			
要因分析		生物多様性保全に関する意識の醸成については、様々な広報媒体を活用した情報発信や自然とふれあう体験型プログラムを実施しているものの、生物多様性の認知度は低下したため。							
施策の評価・今後の取組方針		・「生物多様性」の言葉の意味を知っている市民の割合（生物多様性の認知度）」については、広報紙、ホームページ、X、パネル展等の様々な広報媒体を活用した情報発信、環境学習センターと連携した自然観察会や各種イベント等の実施を通じた周知啓発を行っているものの、昨年度より低下し、目標値を下回る結果となった。 ・今後は、生物多様性の認知度の向上を図るため、引き続き、各世代に適した様々な広報媒体を活用して身近でわかりやすい情報を発信するとともに、学校と連携した「宇都宮学」による学び場の提供や自然とふれあう体験型プログラムの充実を図っていく。							

基本施策 施策指標		R1 (基準値)	R2	R3	R4	R5	R6	R7 (目標値)	施策指標評価
3-2-1 農地等の多面的機能の維持向上 【施策指標】市内農地における環境保全活動カバース率（累計）	参考値 (目標値)	39%	46%	53%	60%	66%	73%	80%	C 64%
	実績値	39.3%	38.1%	38.8%	38.6%	39.9%			
要因分析		多面的機能支払交付金制度に取り組んでいる地域は、地域住民との共同作業により、良好な農村環境の保全を実現しているものの、市内農地における環境保全活動カバース率はほぼ横ばいとなったため。							
施策の評価・今後の取組方針		・市内農地における環境保全活動カバース率については、令和5年度は目標値を下回る結果となった。 ・多面的機能支払交付金制度に取り組んでいる地域は、地域住民との共同作業により、良好な農村環境の保全を実現しているものの、市内農地における環境保全活動カバース率はほぼ横ばいとなっている。 ・今後は、カバース率の向上を図るため、既存組織や組織活動を行っていない地域に対し、個別説明会や地域からの相談等の機会を捉え、本市の現状や課題等を示しながら、活動の継続や活動面積の拡大、新規組織の立ち上げを促進していく。 ・また、令和5年度から新たに立ち上げた広域活動組織の事務局運営を支援するとともに、広域活動組織への未加入組織に対しても、個別説明等の機会を捉え、加入のメリット等を説明し、加入促進を図っていく。							

【施策指標について】

自然環境分野では7の施策指標を掲げており、評価は、「A評価」2,「B評価」3,「C評価」2,となりました。

「C評価」となった「「生物多様性」の言葉の意味を知っている市民の割合（年）」と「市内農地における環境保全活動カバー率」については、「生物多様性保全に関する意識の醸成については、様々な広報媒体を活用した情報発信や自然とふれあう体験型プログラムを実施しているものの、生物多様性の認知度は低下したこと」、「令和5年度から3組織が新しく活動を開始し、カバー率が微増したが、目標値に届かなかったこと」が要因として考えられます。

今後は、生物多様性の認知度の向上を図るため、引き続き、各世代に適した様々な広報媒体を活用して身近でわかりやすい情報を発信するとともに、学校と連携した「宇都宮学」による学ぶ場の提供や自然とふれあう体験型プログラムの充実を図っていきます。

【構成事業について】

自然環境分野では、53 構成事業を掲げ、生物多様性保全の情報共有や河川や緑地等の整備の推進等を推進していますが、令和5年度は、一部の構成事業を除き「計画どおり」となりました。

構成事業の「うつのみや生きものつながり活性化事業※の推進」については、マッチング第1号による保全活動が6回開催（のべ151人参加）されたが、本事業によりマッチングした活動団体は1組にとどまっていることから「計画より遅れ」となりました。

※うつのみや生きものつながり活性化事業とは

自然を守る活動のノウハウやフィールドを持つ市民団体と環境保全活動を通じた社会貢献に意欲のある事業者をマッチングし、自然を守る活動の活性化を目指す事業

【分野 4 生活環境】

施策指標（全 8 指標）			構成事業（全 8 事業）		
A 評価	B 評価	C 評価	A 評価	B 評価	C 評価
4	4	—	—	8	—

基本施策 施策指標		施策指標							構成事業	総合評価
		(令和元年度) R1 (基準年)	(令和2年度) R2 (実績値)	(令和3年度) R3 (実績値)	(令和4年度) R4 (実績値)	(令和5年度) R5 (実績値)	(令和5年度) R5 (参考値)	(令和5年度) R5 (評価)	(令和5年度) R5 (評価)	(令和5年度) R5 (評価)
4-1-1	大気汚染状況の監視 【施策指標】 光化学オキシダントの環境基準達成率(年)	92.7%	93.7%	94.5%	94.5%	93.7%	97.6%	B 96%	B	概ね順調
4-1-2	水質汚濁状況の監視 【施策指標】 河川水の生物化学的酸素要求量に係る基準達成率(年)	94.4%	88.9%	94.4%	94.4%	94.4%	98.1%	B 96%	B	概ね順調
4-1-3	騒音振動の調査 【施策指標】 自動車騒音に係る環境基準達成率(年)	93.8%	93.1%	94.5%	94.5%	94.1%	97.9%	B 96%	B	概ね順調
4-1-4	放射線や化学物質の調査 【施策指標】 ダイオキシン類の環境基準達成率(年)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	A 100%以上	B	順調
4-2-1	工場・事業場の監視・指導 【施策指標】 工場・事業場における排出基準超過件数(年)	6件	3	2	3	0	2	A 100%以上	B	順調
4-2-2	事業者等への意識啓発 【施策指標】 良好な生活環境の確保に係る市民満足度(年)	35.7%(R2)	35.7%	39.3%	34.7%	51.5%	38.2%	A 100%以上	B	順調
4-2-3	自動車排出ガス対策の充実 【施策指標】 電気自動車補助件数(累計)	5件	7	14	160	342	335	A 100%以上	B	順調
4-2-4	生活排水対策の充実 【施策指標】 生活排水処理人口普及率(累計)	98.7%	99.1%	99.3%	99.3%	99.4%	99.8%	B 99%	B	概ね順調

【施策指標について】

生活環境分野では、8 施策指標を掲げており、評価は、「A 評価」4、「B 評価」4 となりました。

「電気自動車補助件数（累計）」については、令和 4 年度までは目標値を下回っていましたが、軽 E V の販売開始により、目標値を上回りました。

引き続き、脱炭素化の実現に向けて電気自動車への乗り換え等が必要であることや、電気自動車の利点等について周知啓発に取り組んでいきます。

【構成事業について】

生活環境分野では、18 構成事業を掲げ、法令に基づく工場や事業場への立入検査や指導等を推進していますが、令和 5 年度は、すべての構成事業において「計画どおり」となりました。

【分野5 人づくり】

施策指標（全6指標）			構成事業（全6事業）		
A評価	B評価	C評価	A評価	B評価	C評価
3	3	—	—	6	—

基本施策 施策指標		施策指標						構成事業	総合評価
		(令和元年度) R1 (基準年)	(令和2年度) R2 (実績値)	(令和3年度) R3 (実績値)	(令和4年度) R4 (実績値)	(令和5年度) R5 (実績値)	(令和5年度) R5 (参考値)	(令和5年度) R5 (評価)	(令和5年度) R5 (評価)
5-1-1	市民総ぐるみによるもったいない運動の推進 【施策指標】 もったいない運動の認知度(年)	48.9%	—	43.4%	48.9%	58.0%	56.3%	A 100%以上	B 順調
5-1-2	もったいない運動を取り入れたイベントの開催 【施策指標】 もったいない運動を取り入れたイベントの割合(年)	100%	—	—	—	100%	100%	A 100%以上	B 順調
5-2-1	環境学習の場と機会の提供 【施策指標】 環境学習センター開催講座の平均満足度(年)	83.2%	87.0%	87.1%	83.1%	85.3%	94.4%	B 90%	B 概ね順調
5-2-2	地域における環境保全活動を担う人材の育成 【施策指標】 環境出前講座開催数	42回	18	32	43	44	44	A 100%以上	B 順調
5-3-1	各主体による環境配慮行動の推進 【施策指標】 もったいない運動の実践率(年)	32.0%	—	24.9%	28.7%	40.4%	50.7%	B 80%	B 概ね順調
5-3-2	多様な活動主体間の連携促進 【施策指標】 環境学習センターの利用件数(年)	887件	508	549	745	795	889	B 89%	B 概ね順調

【施策指標について】

人づくり分野では6施策指標を掲げており、評価は、「A評価」3、「B評価」3、となりました。

「もったいない運動の実践率(年)」については、令和5年度は目標値を下回る結果となったが、前年度と比較し増加傾向にあり、もったいないフェアの開催や市内各所での巡回展の実施などにより、もったいない運動の周知や実践促進を推進することができました。

引き続き、もったいない運動の取組事例を紹介するなど、家庭や事業所等で取り組みやすく、より効果的な実践促進を図っていきます。

【構成事業について】

人づくり分野では、29構成事業を掲げ、市民総ぐるみによる「もったいない運動」の取組や、環境学習の場と機会の提供等を推進していますが、令和5年度は、全ての構成事業が「計画どおり」となりました。